

# 暗唱のすすめ 百人一首編⑬

七十六

わたの原 潜ぎ出でて見れば ひさかたの  
くもい ゴウ おき しらなみ  
雲居にまがふ 沖つ白波

ほつしようじにゆうどうさきのかんはくだいじょうだいじん  
法性寺入道前関白太政大臣



七十七

瀬をはやみ 岩にせかるる 滝川の  
すえ ワン おもウ  
われても末に あはむとぞ思ふ

すとくいん  
崇徳院



七十八

淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に  
よねぎ すま せきもり  
いく夜寝覚めぬ 須磨の関守

みなもとのかねまさ



源兼昌

七十九

秋風に たなびく雲の 絶え間より  
いず つぎ かげ  
もれ出づる月の 影のさやけさ

さきようのだいぶあきすけ



左京大夫顕輔

八十

長からむ 心も知らず 黒髪の  
みだ けさ もの おもエ  
乱れて今朝は 物をこそ思へ

たいけんもんいんほりかわ



待賢門院堀河